

## 野生動物や衛生害虫（クロバエ）による ウイルス侵入防止対策を徹底しましょう

●大田原市羽田の死亡野鳥（オオハクチョウ）から高病原性鳥インフルエンザウイルスを確認！！（12/15家畜衛生情報）

ハシブトガラスやクロバエは、腐肉食性で、動物の死体を食べる習性があり、農場、鶏舎内へウイルスを運ぶ重要な感染経路の一つと考えられます。

防鳥ネットの再点検、衛生害虫対策を徹底しましょう。

### オオクロバエ

- 暗青藍色の大型のクロバエ（体長10～15mm）
- 嗅覚に優れ飛翔力高い（1.8km/日）
- 成虫は、晩秋と初春（比較的寒い時期）に活発で、夏季には見られなくなる。



※2004年、発生農場周囲の個体からウイルス分離事例あり

### ～ クロバエ類の家きん舎内への侵入防止について ～

- 死亡鶏を家きん舎内等に放置しない！  
死亡鶏は速やかに畜舎内から出し、密閉容器で保管しましょう！
- 家きん舎の金網や防鳥ネット（吸気口）を殺虫剤処理する  
10月～4月は、最低月に1回殺虫剤で処理しましょう！  
※集糞ベルトの出口等の対策も忘れずに！  
集糞ベルト出口ではクロバエ類をよく見かけます。日頃から殺虫、消毒を実施しましょう。

飼養家きんに異状を認めたら、速やかに管轄の家畜保健衛生所に御連絡ください。